

ダイナミックな技次々 渋川ビーチサッカー大会最終日 800人熱戦、観客沸かせる

第11回たまの渋川ビーチサッカー大会(市サッカー協会主催、山陽新聞社など共催)の最終日が12日、渋川海岸で行われた。選手たちは軟らかな砂浜のピッチでダイナミックな攻防を繰り広げた。

中学生以上のエンジョイに32チーム、女性限定のレディースに6チーム、保育園・幼稚園児のキッズに24チームの計約800人が出場。キッズはトーナメントで、他の2部門は数チームずつに分かれてリーグ戦で争った。



激しい攻防を繰り広げる選手たち

選手は時折降る雨をものともせず、はつらつとプレー。エンジョイの強豪チーム同士の試合では、ダイビングヘッドやオーバーヘッドキックなどアクロバティックな技が随所に飛び出し、観客を沸かせた。

胸上FCでエンジョイに出場した玉野高サッカー部の1年岡田海翔さん(15)は「砂浜に足を取られたり、ボールが思わぬ方向に転がったりするのも面白い。次回も参加したい」と話していた。

会場には、玉野総合医療専門学校の学生がマッサージやテーピングを施すトレーナーコーナーが初めて設置され、選手が詰め掛け好評だった。

この日は渋川海岸で、全国ビーチサッカー大会の県予選もあり、3チームがリーグ戦で激突。ベル・エキップBSとハレクティオ岡山の上位2チームが9月に同海岸で行われる中国大会に出場する。(近藤哲也)